



桜友同窓会報



創立100周年記念演奏会

No.49 2023.07

山形県立楯岡高等学校
山形県立東桜学館高等学校

コロナ禍の中でも変わらなかったもの



同窓会長

菅原 幸悦

母校が県立高等学校になって、今年度は100周年を迎えております。

同窓会では創立100周年を記念して、昨年9月には記念演奏会と記念講演会を「やまぎん県民ホール」で全生徒参加のもとに開催することができました。世界に誇れる、山形交響楽団の演奏に触れ、そして世界で活躍している同窓生のお一人でもある草刈康子さんのお話を伺うことができました。さらに11月には記念碑の除幕式、記念の集いを行いました。記念事業の実施にあたり同窓会の皆様からいただきました多くのご支援に感謝申し上げます。

例年夏に開催していましたが、未曾有の感染症の中で恒例の形での総会が開催できないまま3年が経ってしまいました。この5月に、ようやく新型コロナウイルス感染症法上の分類引き下げが行われましたので、開催に向けて準備しているところです。多くの同窓会の皆様が集う同窓会総会が開催できることを期待しているところです。

さて、私たち同窓生の思い出の詰まった楯岡高校跡地ですが、村山市のにぎわい創造活性化施設「リンク むらやま」として昨年オープンしました。オープン性とコミュニティ性を兼ね備え、世界・未来に発信する施設に生まれ変わりました。私も数回訪問したのですが、北校舎と体育館等が活用され十分に懐かしさを感じることができました。

私たちは新型コロナウイルス感染症が蔓延した中で、大きく変わった社会生活を送ってきました。ですがこの中でも変わらないものがあるということもわかりました。同窓生としてのつながり・絆です。卒業年次を越えた縦糸と、同一学年の横糸です。どうぞ今後ともこの縦糸と横糸を紡いで、皆様からは同窓会や母校に大きな息吹を吹き込んでいただきたいと思います。願っております。

令和5年度

桜友同窓会総会の開催について

同窓会総会は、コロナ禍のために令和2年度は中止、令和3年度・令和4年度は「評議員による代行総会」となりましたが、今年度は通常の総会開催とすることになりました。

期 日／令和5年8月5日(土)

午前11時から

会 場／村山市民会館 大会議室

会 費／3千円(事前にチケット販売)

招待学年／石楠花会(昭和47年3月卒業)

代表：菊池貞好 他

当番学年(幹事)／麓登会(昭和61年3月卒業)

竹川博昭、小玉百重 他

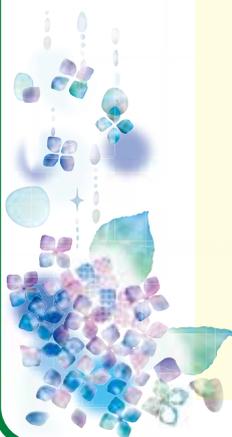
燦章会(平成15年3月卒業)

杏澤靖明、柴田 泉 他

*なお、令和6年度の当番学年は「無双会(昭和62年3月卒業)」と「青春会(平成16年3月卒業)」の皆さんとなります。

《招待学年からのひとこと》

在りし日の楯岡高校を卒業して半世紀、長い年月を経て楽しかった事また苦しかった事がよみがえります。そんな様々な事を思い返しながら懐かしい友の顔、諸先輩の皆様、そして恩師の方々にお会いできるのを楽しみにしております。



母校創立100周年記念「記念誌」の発行について

母校「東桜学館高等学校・楯岡高等学校」が、山形県立に移管後100周年を迎え、記念の事業として「同窓会報の縮刷版」を発行致します。

希望者は同封の支払い申込書に希望数と金額を記入し、お振込下さるようお願い申し上げます。



創立100周年記念誌(仮)

支部・同期会たより

S37年卒 楯芝会

10名参加の予定でしたが1名欠席となりました。
小山 孝雄



参加者は「高校生時代の頃に戻った気分が若返った!」と。遠方より参加の方もおり、とても楽しい会でした。

総会終了後もみんなで和気あいあいの同期会を楽しみました。

S43年卒 自鷺会

桜が満開となる季節、令和5年3月25日スクワール麴町会場にて、桜友同窓会東京支部総会が開催されました。総会には私たち白鷺会(43年卒)9名が参加しました。

総会終了後は、平成30年8月以来、久しぶりに東京での同期会となり、みんなで迎賓館赤坂離宮を散策。あの頃に帰って懐かしい友と旧交を温め、楽しい時間を過ごすことができました。

青山 和子

S44年卒 紫陽会

高校を卒業し故郷を離れて50年以上になります。
高橋 清

この度、5年振りに同窓会が開催されるといふ事で20数名の方に声を掛けましたところ、中学もクラスも部活動も違うという方が5名参加してくれました。

卒業以来、初めてお会いする方もおり同窓会だけでは物足りず



東京支部

東京支部長 青柳義昭

東京支部同窓会は3月25日（土）、四ツ谷スクワール麹町にて5年ぶりに行われました。

会場界隈は桜満開の中、まさに桜友の名にふさわしい時期に開催することができ、約70名の方々の出席がありました。本部山形から笹原会長はじめ7名の役員様のご出席を賜り、そして関東地区だけでなく北海道、大阪、静岡など遠方からのご参加もありました。誠にありがとうございました。

第一部の総会は、福岡高校の校歌を昭和59年卒の小野建様の指揮のもとに声高らかに斉唱し、東桜学館の校歌も拝聴しました。支部長より、ご出席いただいた皆様への感謝と、支部活動として山形県人が集まる東京連合会（県人会）に昨年に入会したことを報告、県内外の方々と広く交流することは東桜学館、桜友同窓会の後援活動につながるの思いを熱く述べました。また新たに4名の新役員として、44年卒の高橋清様、48年卒の伊藤美紀夫様、49年卒の鈴木晴彦様、51年卒の後藤正博様を紹介しました。

人生経験豊富な卒業生の卓話では、昭和39年卒の関西大学名誉教授の高橋隆博先生より「知られざる豊臣秀吉の野望」の演題で、ドイツで発見された「豊臣期大阪関屏風」から秀吉の野望（大阪遷都構想）を窺い知れるという興味深

い話がありました。また何故関西に住むことになったか、当時の世相を反映した苦学生生活も身近に感じながら聞き入ったところです。

第二部の懇親会は、笹原会長より母校創立100周年記念事業を挙行したこと、東桜学館の生徒たちが切磋琢磨して、中高一貫高校としての期待に十分応えているとの希望に満ちたお話がありました。昭和37年卒の小山様の乾杯後、懇親会は一気に和やかな雰囲気になり、会話の中に笑い声も交じり、久しぶりに再会する人、初めて参加される人も時間の許す限り歓談したところです。さらにお楽しみ抽選会ではテーブル毎に拍手や歓声が沸き起こり、大いに盛り上がりました。

また、支部総会開催に当たり、案内状とともに会員の皆様に運営



令和4年度運営協力金へのお礼

常日頃、同窓会活動にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。
同窓会への運営協力金については、令和4年度をもって一旦終了となります。令和4年度の運営協力金は、502件、188万円余りになりました。
運営協力金は、同窓会報の発行に使わせて頂きました。
同窓生皆様のご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

協力金をお願いをしましたところ、約80名の方々のご協力がありました。ありがとうございました。
当日出席できなかった皆様には、総会で配付しました資料と会場の様子を収めたスナップ写真を、早速お送りいたしました。
盛会でおわった総会でしたが、母校愛に満ちた先輩たちの後を受けて次の世代へどうつなげていくか、特に若い世代の参加が望まれています。残念ながら即効性はありませんが、卒業年度ごとの同期会を充実させ、声掛けなど地道に連携を図ることに今後とも努力していきたいと考えております。

の後に全員参加で二次会に行きました。
多くの方に参加して頂けるよう、次回にはクラス幹事を決めることにしました。

思い出話に時間のたつのも忘れ名残惜しい中、また会おうと再会を約束し散会となりました。

S45年卒 紫紺会

私たちの学年は、アポロ11号が史上初めて人類による月面着陸に成功した年に福岡高校を卒業いたしました。

それから53年が過ぎ、「母校創立百周年記念のつどい」のおめでたい席に招待学年としてお招きをいただき、28人が出席いたしました。

記念のつどいの二次会として開いた同期会では、高校時代の思い出話に花が咲き、みんな満面の笑みを浮かべながら楽しいひと時を過ごしました。

18歳で高校を卒業した私たちも古希を過ぎ、参加者は、光陰矢の如し、を実感しつつ、次の再会を約束してお開きとなりました。

コロナ禍でイベント開催の困難な状況ではありましたが、開催にご尽力いただいた同窓会関係の皆様方に心より感謝申し上げます。

S46年卒 新緑会

母校百周年記念式典の後に開かれました。昭和46年に卒業し、50年も経ちました。懇親会には30名近くが参加し、はじめはお互いがなんとなく、静かな雰囲気でしたが、やはり、そこは同窓生、時間が経つにつれ、和やかに在校当時の話題や、今の現況、孫の話までいろんな話題で盛り上がり、夜遅くまで歓談することができました。



S48年卒 志峰会

令和4年11月25日ホテルキャッスル山形での懇親会を感染対策を行い実施した。
各クラスの住所不明者の住所把握を積極的に行う
茶話会を3月または4月に実施する
LINEグループ「志峰会」を利用した情報発信などを協議し、その後、懇親を深めた。





ポストコロナという転換期を迎えて

校長 生島 信行

今年度、新たに校長として赴任いたしました生島信行と申します。よろしくお願いたしました。

桜友同窓会の皆様には、日ごろより温かい御支援と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。同窓会から寄贈いただきました「千鍛万錬」と「東桜魂」を刻む横断幕を見るたび、同窓会の皆様からの学校への熱い期待感をひしひしと感じております。生徒たちへの激励として常時掲げており、日々活動する生徒にとって心の支えとなっております。

本校に赴任し、めざましい生徒の活躍ぶりに、学校の勢いを感じております。卒業生の進路については、大学入試において東京大学や山形大学医学部医学科などに2年連続で合格者を輩出するなど、注目を浴びております。このような実績を複数年残したことによって、本校の学習進路指導への評価は、確固たるものになってきたと感じております。そして、本校の魅力を高めている文部科学省指定のSSH事業は第2期目となり、探究型学習やグローバル教育は、本県教育における牽引役を果たしていると自負しております。

さて、ゴールデンウィーク明け、新型コロナの扱いが5類に移行しました。4月当初から、この5類移行を見据えて、学校経営のかじ取りをしてきましたが、様々な活動や生活について、どのように回復していくかが今年度の大きなテーマの一つです。4月の始業式の式辞で、単にコロナ前の活動に戻すのではなく、新しい時代に入るという意識も持ち、これまでの活動や生活などを作り直す、新たに作り出すという気持ちで、新たな姿をどう作るか前向きに追求し、新たな構築に向けた行動を心掛けてほしいと、生徒に訴えました。ポストコロナという転換期だからこそ、新しい歴史を作るチャンス、これまでの東桜学館を超えるチャンスが、数多く待っている一年と言えるかもしれません。生徒たちの積極性、挑戦の姿勢と実行に期待しているところです。

東桜学館高校の卒業生進路状況

分類	令和4年度 (令和5年3月) 卒業生(人)			
	男子	女子	合計	
進 学	国立大学	24	30	54
	公立大学	5	13	18
	私立大学	27	33	60
	国公立短大	0	1	1
	私立短大	0	1	1
	看護・医療系専門学校	1	10	11
	看護・医療系以外の専門学校	11*	2	13*
	職業訓練校・公立大学校	0	0	0
進学合計		68*	90	158*
就 職	公務員	0	1	1
	民間	1*	1	2*
	就職合計	1*	2	3*
そ の 他	海外留学等	0	0	0
	その他	9	2	11
合計(卒業人数)		77*	94	171*

※進学就職者男子1名のため
進学+就職+その他=合計となっていない。

楯岡高等学校の歴史を継承しながら、特色ある活動を充実・発展させ、すべての生徒がそれぞれの個性溢れる桜(はな)を大きく咲かせることができるよう、教職員一同、努力してまいりますので、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。なお、本校の教育活動については、随時、ホームページにより情報を発信しておりますので、併せて御覧いただければ幸いです。



学校行事の 中から

今年度も新型コロナウイルス感染症の拡散防止対策が学校行事にも大きな影響を与えましたが、対応が定着したこともあり、多くの学校行事は実施できました。

4月7日、中・高の入学式が行われました。来賓や保護者の参加もある程度制限しての開催となりました。

学校が始まってからは例年通りの行事日程でほとんどの事業が再開されました。

部活動も4月に新入生への部活動紹介なども例年通り行われ、スタートしました。

地区総体や県総体等は例年通りに開催されましたが、コロナ以前と同様に、生徒と顧問、コーチ、応援の保護者の参加もできるようなりませんでした。

7月にはクラスマッチが開催され、8月の東桜祭(文化祭)も開催されましたが、地域の方を入れずに生徒、保護者のみの開催となりました。

また、8月上旬にかけて東京都で開催された全国高等学校総合文化祭には放送部、写真・新聞部

かるた部が参加しました。10月には校内マラソン大会、地区新人戦や県新人戦がコロナ禍以前の形で開催されました。

11月には2年生の研修旅行が、関西方面で実施されました。

恒例のかるた大会は12月に実施され、新しく寄贈された十二単衣に身を包んだカルタ部員の読み上げによって華やかに開催されました。

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業は平成29年度に指定を受け、令和3年度でI期目を終え、4年度から新たにII期目をスタートさせました。

「中高一貫校を核としたやまがたの未来を拓くグローバルな視点を持った科学技術人材育成」をテーマとして、取り組んでいます。今年度開催された主な事業をご紹介します。

「SSH総合探究Ⅰ」「SSH総合探究Ⅱ」「SSH総合探究Ⅲ」を開講しました。



○東京大学教養学部「高校生と大学生のための金曜特別講座」前期後期あわせて15回開講し、のべ418名の生徒が受講した。

○東桜サイエンスラボ

7月・8月には、地域の小学生及び保護者対象の科学実験教室として実施しました。39組80名の小学生とその家族の方が参加、講師は主に本校の教員で行い、中学生及び高校生がティーチングアシスタント(TA)としてサポートを行いました。

○国際理解講演会

7月に鶴岡市立加茂水族館館長奥泉和也氏よりクラゲの生態や加茂水族館の歴史、世界の水族館におけるクラゲの飼育について講話をして頂いた。廃館寸前の水族館の復活を果たしたことについて生徒達も感動し、何事にも前向きに取り組んでいくことの大切さを感じたようでした。

○SSH生徒発表会

8月に神戸市でひらかれた大会に参加しました。全国の参加者との発表を通じた交流を行い、研究やデータの検証方法、発表の技術や工夫の仕方を学び、自らの課題研究をさらに深めることができました。

○未来創造プロジェクト中間発表会

10月には高校2年次の生徒が最終成果発表会に向けて、研究の改善をはかる場と位置づけ実施しました。山形大学や東根市役所などから研究アドバイザーをお招きし、様々な意見をいただきました。また、山形県内の他校から6グループが参加し、発表を行うとともに、

様々な意見交換も行い、お互いにとって有意義なものになったようです。

○第10回科学の甲子園山形県大会に参加

大会は筆記と実技競技があり筆記は10月21日、実技は10月23日に開催され、筆記に6名、実技に4名が協力して課題に挑みました。

○飛島フィールドワーク

「飛島フィールドワーク」を2泊3日で実施できました。飛島の地形や自然、歴史や文化、生活など全般に渡っての調査を行った。参加者は22名でした。

○山形県探究型学習課題研究発表会

8グループ26名が参加しました。その結果、高文連科学専門部の部優良賞(二目からの感情を読み取るAIの実用化)(物理分野)。一般の部優良賞(紙バネの硬さに法則はあるのか?)(物理化学分野)の2班が、受賞しました。

○東北地区サイエンスコミュニケーション研究校発表会

福島県郡山市を会場に開催され、本校代表が「Pebble」を用いた家庭での除雪経路の最適化」および「伸縮する折り紙構造に関する研究」のテーマで、発表を行いました。参加した生徒たちは、久しぶりの対面での発表会だったのでさまざまな刺激をもらい、今後の発表会や探究活動に大変有意義な経験となりました。

○未来創造プロジェクト成果発表会

5年2月に、校内生徒・学校関係者のみを対象とした開催となりました。

ましたが、中高同時開催で、異校種間の交流でお互いの良さを実感する機会となりました。全体会の様子は、保護者へオンラインで限定公開を行いました。

○つくばサイエンスツアー

5年3月には筑波学園都市に行き、最先端の研究施設とレベルの高い研究内容に触れることで、科学技術についての理解を深め、理系の学問を志す強い気概を育成することを目的に1年生の希望者を対象に実施した参加者は80名でした。

○START2022

国際英語プレゼンテーション大会(Study Assembly of Research at Tohoku area in 2022)の略語7月にこの大会は、東北地区では初めて開催しました。

本校の他、海外連携協力校のSMKAコタキナバル中等学校(マレーシア)、ノーンヒンウィッタヤコム中等学校(タイ)、静岡北高校、一関第一高校、横手高校、安積高校、米沢興譲館高校、山形東高校、鶴岡南高校、酒田東高校が参加して、分野ごとに4つの会場に別れて発表と質疑応答を行いました。

○地域の各機関との連携

県立保健医療大学や県立米沢栄養大学、山形大学、東北芸術工科大学の先生方による出張講義が開催されました。

このほかにも生徒達は国内はもとより海外での様々な発表会やコンクールに積極的に参加しております。

詳細は東桜学館のホームページに載っておりますのでぜひご覧ください。

同窓会入会おめでとう

令和4年度同窓会入会式は、令和5年2月28日(火)東桜学館校北アリーナで行われ、「桜輪会」171名が新たに桜友同窓会の会員となりました。

笹原幸悦同窓会会長(548年度卒)からは、次のような歓迎の言葉がありました。

「同窓会とは同窓生が自分たちで努力して作っていく、そして後輩に繋いできたもの。私たち事務局メンバーも、次の世代に繋いでいこうと頑張っています。同窓会の狙いは大きく二つ、①同窓生としての絆、つながりへの支援。②母校(在校生、後輩)への支援。さらに「つながり」には横(同期会)のつながりと、縦(先輩後輩)のつながりです。毎年夏に同窓会総会を実施し、多くの年代の同窓生と懇親を深めています。」

また同窓会の理解を深めるため3つの数字を大書きした紙を示してその意味を説明しました。

「101」=母校が県立高校になり今年度101周年目。100周年記念事業を、去年・今年と2年にわたり7つの事業を展開しました。同窓会のホームページの開設や、皆さんが参加した9月の「やまぎん県民ホール」で行われた記念コンサート(山形交響楽団・本校中高吹奏楽部)、同窓生(平成3年度卒)の草刈康子さんの講演会もその一つです。

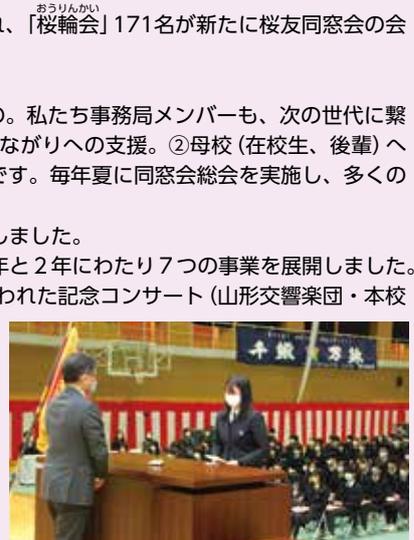
「5」=県立高校となって「東桜学館高校」は5つ目の校名であります。

「20397」=同窓生の総数で、社会の様々な立場で頑張っています。困ったときは、先輩方に相談してください。力を貸してくれるはずですよ。

「桜輪会」の皆さんは特別の学年だと思えます。東桜学館校で一貫生と高入生と一緒に学んだ2番目の学年。そしてコロナ禍で長い休校を経験し、教育活動が制限された中での高校生活。部活動でも大会等が制限されてしまい、マスクをつけての3年間など、誰もが経験しなかったことを体験し、乗り越えた素晴らしい皆さん。私達はそんな皆さんの姿からたくさんの元気をもらいました。卒業後は良いことばかりでなくピンチの時もある。大切なことは失敗しない事ではなく、その失敗から再び立ち上がること。失敗は成長のチャンス。「解決志向」という考えがあります。前を向いていきましょう!同総会は、明日からの皆さんの旅立ちを、ずっと応援していきます。

今年度の同窓会総会の幹事代表として、竹川博昭さん(561年卒:麓登会)から入会激励の言葉を贈りました。

「桜輪会」会長の布川進一郎さんから入会への挨拶がありました。同期会役員が登壇し自己紹介があり、副会長の奥山知佳子さんへ入会記念品として全員に東桜学館中学校・高等学校高校、楯岡高等学校の効果を収録したCDを贈りました。



桜輪会 171名

会長 布川進一郎
副会長 奥山知佳子

クラス代表

- | | |
|----------|---------|
| 1組 布川進一郎 | 2組 岡田健佑 |
| 3組 奥山知佳子 | 4組 芦野南海 |
| 5組 松原理子 | |

入学式

平成5年4月7日(金)、東桜学館中学校・高等学校の入学式が行われました。

新型コロナウイルスへの感染拡大対策のため、万全を期して中学校・高等学校で分離開催となり、入学生と保護者、教職員のみで参列となりました。

入学者数は、中学校99名、高等学校201名(一貫生88名・高入生113名)です。

笹原同窓会会長は、「新入生の皆さんは厳しい入学試験のハードルを越えられ、大きな夢と希望をもって本校に入学されました。本日は自分の力で自分の道を切り開いた人生の貴重な第一歩となります。本校は県内初の中高一貫校として開校から8年目を迎えました。前身の県立楯岡高等学校を母体としておりますので、県立高等学校としては実に創立102周年にあたります。この間、各界に2万余名の素晴らしい多くの人材を輩出してきました。皆さんも先輩方に続き、社会を創る一人のメンバーとして研鑽し大きな夢を本校で育まれることを期待いたします。中学1年生から高校3年生まで学ぶスタンスとして、私が特に重要だと考えていることをお伝えします。それは、『失敗しないようにすることが大切ではなく、失敗してもそこから再び立ち上がるのがずっと貴重な体験である。』ということです。何度転んだとしても前を向ってください。皆さんの周りには仲間がたくさんいます。解決の方法は必ずあります。これから始まる本校での生活は自分自身の将来を決めるための基礎となる、とても貴重な時間になります。仲間と力を合わせていろいろな事柄に積極的にチャレンジしてください。新入生の皆さんが大きく成長されることを期待しています。結びになりますが、本校のご発展と新入生のご健勝とご活躍をお祈りいたします。」との祝辞を寄せました。

令和4年度 卒業式

令和5年3月1日、第7回卒業証書授与式が行われました。

卒業生171名の皆さんは希望を胸に、一人一人がそれぞれのステージに向かって新たな第一歩を踏み出しました。新型コロナウイルス感染症拡大によってもたらされる変化を前向きに捉え、弛まぬ努力と柔軟な発想で学校を牽引してきた皆さんが、東桜学館高等学校の第7回卒業生としての誇りを持ち、次代を担うリーダーとして活躍してくれるものと期待しています。(官 校長のメッセージ抜粋)

笹原同窓会会長は次の祝辞を寄せました。(抜粋)

「今年度、東桜学館高等学校として7年目を迎えました。東桜学館中学校に入学した“一貫生”と、高等学校に入学した“高入生”が一緒になった2回目の卒業生を送り出す年です。今年度は、本校が大正10年に県立高等学校としてスタートしてから、101周年を迎えた年でもあります。卒業生の皆さんにとっては、コロナ禍の中で大変厳しい高校生活が3年間続いた訳ですが、その中でも前を向き続けた皆さんを私は大変誇らしく思います。皆さん一人一人の姿からは、同窓生のみならず、私たち市民もたくさんの勇氣と元気を頂きました。ありがとうございます。

これから皆さんは、一人一人が選んだ道に進むこととなりますが、それぞれの道に大切な役割があり価値があります。皆さんは自分の信じた道を進んでください。自分の心に従って前に前に歩んでいってください。過去を振り返ったり未来を憂いたりする必要はありません。皆さんはただただ今を精一杯に生きる、それだけで輝くことが出来るのです。私も同窓会皆さんの応援団です。これからも末永く皆さんの成長を見守ってまいります。

「桜友同窓会長賞」の授与

東桜学館高等学校において、3年間努力を重ね、品行方正でかつ優秀な学業成績を取めた生徒の将来の大成を祈念し、桜友同窓会よりこの賞を贈ります。

受賞者/阿部 慎之丞さん



母校創立100周年記念事業の報告



母校創立100周年記念事業は、令和元年度に準備委員会を立ち上げ、令和2年度に実行委員会を創立し、事業を実施して参りました。当初予定では令和3年度に100周年記念事業を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの蔓延により記念式典など集まっていたのは延期を余儀なくされましたが、ようやく令和4年度に入り、記念式典等を実施することができました。これも会員皆様方の物心両面にわたるご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

母校創立100周年記念事業は次の通り実施されました。

1. 同窓会会員名簿の発行

1080部印刷し、令和3年11月に郵送しました。
業務委託業者：(株)サラト社

2. 記念碑の建立

楯岡高校の講堂跡地(リンクむらやま敷地内)に建立し、令和4年11月5日午後1時より除幕式をおこないました。

「記念碑」揮毫者：鈴木 千岳氏(山麓会・昭和36年3月卒)
「記念碑」設計者：金谷 光高氏(新緑会・昭和46年3月卒)

施工業者：(株)建北社(村山市)

尚、楯岡高校の正面玄関前にありました校歌碑も一緒に移動設置致しました。

3. 母校創立100周年記念「記念のつどい」

令和4年11月5日午後2時より 東根温泉「花の湯ホテル」

参加者総数：119名

招待学年：紫紺会(昭和45年3月卒)・新緑会(昭和46年3月卒)

4. 記念誌の発行

発行部数：記念誌(冊子)1000部・1冊2,500円

PDFデータ集(DVD)500部・1枚1,500円

両方購入の場合は3,500円

令和6年3月に発行予定



桜友同窓会母校創立100周年記念事業 — 記念演奏会 —

桜友同窓会母校創立100周年記念事業「記念演奏会・記念講演会」が9月15日(木)にやまぎん県民ホールにて、本校中高生徒約900名と職員約80名、保護者約200名、同窓会関係者約100名の参加のもと行われました。

記念演奏会第一部は、山形交響楽団(54名)と本校中高吹奏楽部(67名)による合同吹奏楽団の演奏(指揮・山形交響楽団指揮者上藤俊幸氏)で、オープニングの「ファンファーレ・エグゼランツァ」に続き「東桜学館中学校・高等学校校歌」、「祝典序曲」パシフィック・シティ」と、本校の校歌を作曲した八木澤教司氏の楽曲のみで構成したステージとなりました。一部最後は「ユーフォニアム協奏曲」を本校教諭で高校吹奏楽部顧問の布川清史氏(無双会)がユーフォニアムソリストとして合同吹奏楽団と協演し、第一部を終えました。

演奏会第二部は、山形交響楽団の管弦楽ステージで、ピアノ、ドヴォルザーク、メンデルスゾーンの管弦楽曲の演奏を、普段なかなか聴けないオーケストラの生演奏で堪能しました。

第二部は記念事業のために作曲された「悠遠の驕旅—芭蕉の歩いた出羽路(管弦楽版)」を再び山形交響楽団と本校中高吹奏楽部の合同演奏にて演奏しました。

現東桜学館高校吹奏楽部の前身である楯岡高校音楽部が管弦楽活動をしていた時代には、式

地域の話題

にぎわい創造活性化施設「Link MURAYAMA」 1周年を迎えます！

令和4年7月22日、楯岡高校の跡地にLink MURAYAMA (リンクむらやま) がオープンしました。楯岡高校の管理棟等を利活用したこの施設は、オープンしてからの一年間、幅広い年代の方に利用され、村山市ににぎわいをもたらす新たな場所になっています。

メインエントランスからすぐ正面は、職員室を改修した広くて開放的なフリースペース。訪れた人が座って自由に休憩できる場所です。解体した旧校舎で実際に使われていた床材や教壇を再利用した家具や、併設するカフェのカウンター部分に、旧教室の窓枠を利用するなど随所に懐かしさが残ります。高校時代、校舎の北側正面にあった校章も、取り外して施設内に展示しました。直径160センチの校章。通称「ワラビマーク」は卒業生の皆さんの記念写真ポイントになっています。

入居している事業者は全部で19社。イベント企画会社やマッサージ店など事業内容も様々で、今現在入居スペースは満室の状態です。

その他、子どもたちに無料で開放している場所として、キッズラボと屋内広場(旧体育館)があり、平日の夕方は地元の子どもたちが訪れ、週末には親子連れで賑わい、遊び場として利用されています。また、市民の安全安心のために、柔剣道場や部室のあった部分を改修して備蓄倉庫とし防災機能も備えています。



地元の方ももちろん、市内県外からも来館して下さる方が増え、年末年始や大型連休の際には楯高卒業生もたくさん訪れていたようです。

施設は間もなく1周年。7月には「夏まつり」と称した記念イベントを企画しています。

いつも利用して下さる方や、遠方からお越し下さる方々にも楽しんでいただけるよう、いろいろな企画でお待ちしています。ぜひご来場ください。



記念誌に掲載する 広告を募集しています

100周年記念誌に広告を掲載してみませんか？

規格／1色刷、125mm×55mm

掲載料／20,000円

申込方法／掲載希望の方は、同窓会事務局に電話、メール等でご連絡ください。詳しい資料をお送りいたします。メ切りは8月末日とします。

《問い合わせ》

山形県立東桜学館高等学校内

桜友同窓会事務局

TEL：090-2794-7502

E-mail：info@ouyuu-yamagata.jp

編集後記

コロナ感染症も2類から5類へと移行になり、少しずつ対応が緩やかになったとはいえ、感染症がなくなっただけではありません。これからの気をつけていきたいものです。

学校生活もようやくコロナ前に戻りつつあり、活気が出てきたように思われます。

同窓会の一大事業である100周年記念事業も残すところ記念誌の発行のみとなりました。同窓会報の会員全員への発送に始まり、会員名簿の発行、記念演奏会・講演会、記念碑の建立、記念式典と何とか無事に事業展開ができたことは会員のご協力の賜であり、事務局としてもうれしく思っております。

さて、この同窓会報の全員配布事業も今号で終わりとなります。次号からはどの年代の方にお送りするか同窓会の役員、評議員会で検討中です。

その代わりとしてホームページをもっと充実させて行かなければならないと考えております、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

写真提供協力 氏井フオトスタイル